

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 25 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25293470

研究課題名(和文) 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイドの作成と普及に関する研究

研究課題名(英文) Research on development and dissemination of public health nursing practice guide for promoting sustainable preventive activities

研究代表者

宮崎 美砂子 (MIYAZAKI, Misako)

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：80239392

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、予防活動の持続・発展という点から保健師が自らの実践を点検・評価し、次なる実践に向けて方向づけの得られるガイドを作成し、その普及を図るための知識を得ることである。(1)収集した技術項目の妥当性に対する質的検討、(2)技術項目の実用性に関する量的検討、(3)技術項目の実践ガイドへの転化及び現場への適用、(4)実践ガイドの普及・発信に向けた試行的取組(セミナー開催)によるガイドの総合検証の順で調査を進め、4カテゴリ38技術項目から成るガイドVer.3を完成させた。現場においてガイドの普及を図るためにはモジュール化などによる更なる工夫の必要性が見出された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to develop and disseminate a practice guide for public health nurses to promote their sustainable preventive activities. The investigations were proceeded as follows: (1) a qualitative survey on the validity of items on preventive nursing skills extracted in previous research; (2) a quantitative survey on the practicality of items on preventive nursing skills; (3) Creating temporary guide using organized items and applying it to the practical fields; and (4) conducting a comprehensive examination of guide by trial approach using seminars for dissemination of guide. As a result, a guide consisting of 4 category 38 items on preventive nursing skills was developed. In order to disseminate the utilization of the guide on the site, necessary to devise measures such as modularization of guide was found.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：予防活動 持続 実践ガイド 地域看護

1. 研究開始当初の背景

本研究は、筆者らの先行研究課題「地域看護実践における予防的戦略の構造と技術の体系化(宮崎他:平成19~21年度科学研究費補助金基盤研究(C)」、「予防活動の持続・発展に影響を与える体制・システム構築に関する地域看護技術(宮崎他:平成22~24年度科学研究費補助金基盤研究(C)」の成果を基に、より実用性の高い知見へと普遍化を図るため、予防活動の持続・発展に資する地域看護実践ガイドを作成し、現場への普及・発信を行おうとするものである。

筆者らは先行研究において、予防活動の持続・発展に有用と考えられる地域看護技術の概念化(項目化)に向けて取り組んできた。すなわち(1)予防活動の演繹的概念整理、(2)基礎調査:1県内の全保健所・全市(区)町村の保健部門78か所を対象とした持続的な予防活動に関する実態調査、(3)保健師への面接聴取による事例調査(14事例)、(4)予防活動の持続・発展に関わる地域看護技術項目抽出、(5)熟練保健師5名を対象とした技術項目への意見聴取、を実施してきた。これにより予防活動の持続・発展に有用と考えられる地域看護技術は、「実践に対する理念の形成」「活動を持続・発展させる中核技術の適用」「取組成果に対する認識の形成」「取組推進の拠所の創出」の4カテゴリから成る65項目の内容として整理されたが、現場の保健師が日常的に自らの実践を振り返り、今後の活動への方向づけが得られるよう、実用化に向けた取組の必要性を強く感じるに至った。

2. 研究の目的

本研究は、予防活動に対する知識と技術を体系的に整理し、予防活動の目的や目標、実践方法、評価に有用な視点を定めることで、実践現場の保健師が、予防活動の持続・発展という点から自らの実践を点検・評価し、次なる実践に向けて方向づけの得られるガイドを作成し、普及を図るための方策を得ることである。

本研究の目標とする最終成果物は、実践現場において実用性の高いガイドの産出とその普及・発信の方法に関する知見である。研究期間(5年)内において、第1に地域看護実践ガイドの基となる技術項目の妥当性と実用性の検証、第2に技術項目をチェックリストに用いた地域看護実践ガイドの作成、第3に地域看護実践ガイドの現場への適用と検証、第4に普及・発信に向けた取組と実践ガイドの総合検証、を目標とする。

予防活動の持続・発展に対して、それを可能とさせる地域看護実践のエビデンスが確立していない現状に対して、本研究は、複数の質的及び量的調査を通して、有用な地域看護技術項目を解明し、根拠のある技術項目をチェックリストに用いた地域看護実践ガイドを作成する。それにより、質の高い実践の推進に貢献しようとするところに特色があ

る。

3. 研究の方法

先行研究により予防活動の持続・発展に係る地域看護技術として概念化した項目の妥当性を検証し、保健師等の地域看護職が自らの実践の評価と方向づけに有用な、技術項目チェックリストから成る地域看護実践ガイドを作成し、その普及を図るための知見を得るため、以下に示す調査を段階的に進めた。

(1)収集した技術項目の妥当性に対する質的検討、(2)技術項目の実用性に関する量的検討、(3)技術項目の実践ガイドへの転化及び現場への適用、(4)実践ガイドの普及・発信に向けた試行的取組(セミナー開催)によるガイドの総合検証。

【倫理的配慮】研究段階ごとに、研究者所属機関の倫理審査委員会にて承認を受け、研究趣旨を各調査対象者に十分説明の上、協力への同意を得て実施すると共に、個人情報保護等の事項を遵守した。

4. 研究成果

(1) 収集した技術項目の妥当性に対する質的検討

先行研究において収集した予防活動の持続・発展に有用と考えられる地域看護技術項目(案)(4カテゴリ65項目)の妥当性を検証するために、新任保健師8名を対象に意見聴取を行い、表現の妥当性及び有用性を質的に検討した。

その結果、65項目中25項目に関して、表現修正を行う必要性が見出され、修正を行った。40項目については表現が適切であると承認された。先行研究において筆者らは熟練保健師を対象に意見聴取を行い、質的な検討は行っていたが、本調査において、新任保健師を対象に意見聴取を行い、質的検討を加えたことにより、実践現場の様々なキャリア発達段階にある保健師にとって、予防活動の持続・発展に向けて自らの実践を評価し方向づけるために有用と考えられる地域看護技術項目(案)を確定させることができた。

収集した項目を精練させ、技術項目(案)を確定したことは、次に計画している量的調査による検証の前段階として意義がある。

(2) 技術項目の実用性に関する量的検討

全国の保健師を対象にデルファイ法を用い、これまで検討してきた予防活動の持続・発展に有用な地域看護技術項目4カテゴリ65項目について、「実用性」すなわち「現場の実践的取組を振り返り評価し、さらにその実践を予防活動として持続的に発展させる上で、自己の考えや行動を方向づける上で、どの程度役立つと思うか」の点から5段階評価による調査を行った。

系統抽出法により選定した22都道府県の796市町村及び232保健所の新任、中堅期、

熟練期、の保健師各1名(合計3,084名)を対象に、地域看護技術項目4カテゴリ11中項目65項目について、予防活動の持続・発展にどの程度役立つ内容であるかを5段階評価により問う郵送自記式質問紙調査をデルファイ法により3回行った。各技術項目の評価は「4.とても役立つ」「3.役立つ」「2.あまり役立たない」「1.役立たない」「0.該当しない」とし0から4の得点を付して集計した。

1回目調査の回答者は901名(回収率29.2%)、2回目調査の回答者は782名(1回目調査からの回収率86.8%)、3回目調査の回答者は566名(2回目調査からの回収率72.48%)であり、最終的な回収率は全対象の18.4%であった。

1回目及び2回目調査結果を研究者間で精査し、4カテゴリ11中項目38項目に技術項目を統合し、また4カテゴリ11中項目の関係を図示した。それらを踏まえ3回目調査を行った。また実践ガイドの構成や活用方法についても自由意見を得た。3回目の調査結果から、技術項目の構成は、実践の理念の明確化(目指すべき姿の明確化、等を含む8項目)、活動の持続・発展(課題を共有するための資料化、等を含む18項目)、取組成果の認識形成(住民や関係者の事業に対する理解の認識化、等を含む5項目)、取組推進の拠り所の創出(上司や課内の理解・協力・評価の獲得、等を含む7項目)の4カテゴリ11中項目38技術項目に最終的に整理された。項目の合意状況は、全項目平均値は3.4であった。各カテゴリでは、どの項目も3.4以上であった。ばらつきがあり、3.1~3.6であった。項目平均は3.2で他のカテゴリに比べて低いものが多かった。1項目のみ3.0以下であった。

以上より、当初の技術項目65項目は、デルファイ法の2回の調査を経て38項目に精選し、3回目の調査において、これら技術項目は、保健事業を持続・発展させるために役立つ項目であることの合意が得られ、保健事業の見直し、次年度の保健事業の計画立案に対する有用性への示唆を得た。

表1 3回目デルファイ調査の結果

カテゴリ	中項目	技術項目数	平均合意率	合意率の範囲
実践の理念の明確化	1.ビジョン・目標の設定	6	3.51	3.45-3.60
	2.実践で価値をおいていることの意識化	2	3.57	3.57
活動の持続・発展	3.評価・改善	4	3.49	3.37-3.61
	4.共有化	3	3.45	3.42-3.48
	5.人材の育成/資質向上	2	3.44	3.43-3.45
	6.体系化・組織化	4	3.30	3.07-3.41
	7.住民・関係者の主体性の育成	5	3.32	3.27-3.43
取組成果の認識	8.直接的な成果の認知	2	3.35	3.21-3.49

形成	9.間接的な成果の認知	3	3.15	3.11-3.17
取組推進の拠り所の創出	10.組織の承認	4	3.48	3.36-3.59
	11.効力感	3	3.28	3.04-3.44

(3)技術項目の実践ガイドへの転化及び現場への適用

精査した技術項目4カテゴリ38項目に基づき、これら項目を現場の保健師が活用できるように解説を加えたガイド(Ver.1)を冊子の形で作成した。本冊子の目次構成は1.はじめに、2.ガイドの目的、3.内容1)技術項目の構造(図)、2)技術項目一覧、3)技術項目の各内容及び解説、4.ガイドを活用したら記録に残そう(様式1、様式2)、5.今後に向けて、6.ガイド作成過程における学術集会等での公表等、とした。

次いでこのガイド(Ver.1)を研究協力の得られた保健師8名(新任期2名、中堅期4名、熟練期2名)に約3か月間、業務に活用してもらい、活用方法及び効果の点に関して、業務上の「目的・目標」、「判断や行動」、「評価の視点」の各変化の観点から、ガイド使用開始後1か月、3か月の各時点において意見聴取を行い、ガイドの現場適用の検証のためのデータとした。

その結果、所属部署や担当業務によって活用状況に差がみられたが、特徴としては以下の内容があった。新任期は、担当事業を見直したり、評価したりする際に活用し、自らの実践に自信を得ることができていた。中堅期は、新任期、熟練期の保健師に比べて頻回に本ガイドの技術項目を活用していた。それにより業務に対するビジョン、体制づくり、関係者との共同や連携、後輩育成への判断と行動に対して変化がもたらされていた。熟練期は、ガイドを読んで新たにヒントや何かしらの気づきを得ることはなかった。また、管理的な仕事が多くなっているため、自身の担当する保健事業というよりも新任期保健師との面接や職員からの相談を受けた際に活用していた。ガイド活用に関する感想や意見としては、「解説を読んで気づきを得られた」、「ビジョンに着目し、保健師間で話し合った」、「ガイドが媒体となってみんなで見て考えられるといい」、「自分の実施していることの確認になり、勇気づけられる」、「技術項目としては大事だと分かるが、その先、具体的に何をしようのか分からない」、「ガイドだけだと淡々と読んでしまって、内容が落ちてこない」等があった。様々な場面でガイドを活用できていることが確認できたことから、さらにガイドの使い方の解説や、ガイド活用の実践例などを掲載し、ガイドを精練させていく必要性が示唆された。

(4)実践ガイドの普及・発信に向けた試行的取組(セミナー開催)によるガイドの総合検証

地域看護実践ガイド(Ver.1)の現場適用

から得られた示唆を基に内容を精練し、ガイド（Ver.2）を作成した。ガイドの普及・発信の方法に関する知見を得るための試行的取組として、ガイド活用による予防活動の持続・発展のための実践セミナーを企画・実施した。対象者は先のデルファイ調査に協力を得た保健師の中から参加表明し、主担当事業に対する3か月程度のガイド活用のモニタリング調査に協力の得られた7名である。セミナーは3か月間に2回・各1日行い、ガイドの説明及びガイド活用による取組み戦略の作成、取組み経過の発表・討議を行った。期間中にはガイド活用状況把握と活用への助言を個別に行った。参加者から得たセミナー後の知識・態度・行動の変化、セミナー満足度、ガイド活用に関する意見や感想のデータを、各セミナー終了直後、第2回セミナー終了2か月後の計3回収集し、ガイドの有用性について、ドナルド・カークパトリックによる教育評価の4視点をうい検証を行った。

その結果、レベル1（Reaction）：2回のセミナーに対して、全員が「よかった」と回答していた。他の参加者の発表や意見が参考になったとの感想が多かった。レベル2（Learning）：ガイドの内容及び活用方法に対して、全員が「理解が深まった」と回答した。第1回セミナーでは、ガイドの活用や構成に関する理解の深まりへの回答が多かったが、第2回セミナーでは、実際にガイドを活用したことで、技術項目内容の理解を深めていた。レベル3（Behavior）：実践において、活動根拠となる資料作成や、事業に対してスタッフ間で認識を共有する機会を設けるといった行動変化等が全員にみられた。レベル4（Results）：人材育成を意識し活動したことで、周囲から次年度にむけた意欲的な発言が得られたとの回答があった。参加者のガイド内容の理解の深まり、実践に対する行動変容が見られ、セミナーによるガイドの有用性が確認できた。以上の結果を踏まえ、ガイドの更なる改良点として、ガイド活用のステップの明示及び様式等のツールの追加等に加え、ガイドVer.3を完成させた（目次項目を下表に示す）。

ガイドの普及・発信に関する知見として、保健師が自立してガイドを活用できるよう、ガイドのモジュール化などによる更なる工夫の必要性が見出された。

表2 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイド Ver.3 の目次項目

1. はじめに
2. ガイドの目的
1)なぜ、予防活動の持続・発展が大事なのか
2)予防活動の持続・発展のためには何が必要か
3)このガイドはあなたの活動の何に役立つのか
4)ガイド活用の対象範囲
5)ガイドを使ってみよう！
3. 内容
1)技術項目の構造（図）

- 2)技術項目一覧
- 3)技術項目の内容及び解説
4. ガイドを活用したら記録に残そう
 - ・様式1：活用した内容の記録用紙
 - ・様式2：チェックした項目の記録用紙
5. 今後に向けて
 - （ガイドの検証・改訂と普及）研修会
6. ガイド作成過程における学術集会等での公表資料：デルファイ法による調査結果
キーワード検索

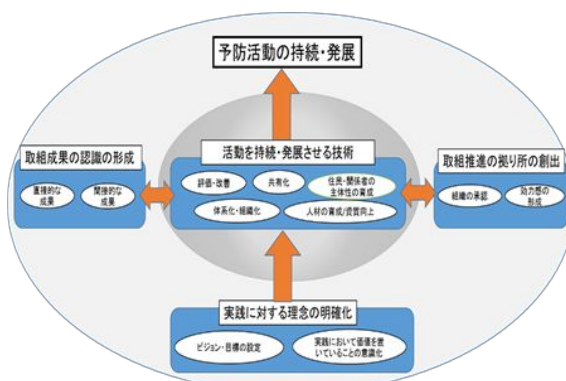


図 地域看護技術項目の構造

5. 主な発表論文等
 - 〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 5 件)
 飯野理恵、宮崎美砂子、石丸美奈、鈴木悟子、時田礼子、杉田由加里、佐藤紀子、栗栖千幸：予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイドを活用した実践セミナーの実施と評価．日本地域看護学会第 21 回学術集会、2018．

飯野理恵、宮崎美砂子、石丸美奈、時田礼子、杉田由加里、佐藤紀子、岩瀬靖子、上田修代、栗栖千幸：予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイド Ver.1 の活用と課題．日本地域看護学会第 20 回学術集会、2017．

Rie Iino, Misako Miyazaki, Mina Ishimaru, Reiko Tokita, Yukari Sugita, Seiko Iwase, Hiroko Tsuchiya, Noriko Sato, Chiyuki Kurisu : A Delphi method-based examination of community health nursing skill useful for the maintenance and development of prevention activities. 19th EAFONS, 2016.

飯野理恵、石丸美奈、時田礼子、岩瀬靖子、上田修代、杉田由加里、栗栖千幸、佐藤紀子、宮崎美砂子：デルファイ法を用いた予防活動の持続・発展に有用な地域看護技術項目の検討（その1）．日本地域看護学会第 18 回学術集会、2015．

飯野理恵、宮崎美砂子、石丸美奈、時田礼子、岩瀬靖子、上田修代、杉田由加里、栗栖千幸、佐藤紀子：予防活動の持続・発展に有用な地域看護技術項目の検討 ～新任期保健師への意見調査～ . 日本地域看護学会第 17 回学術集会、2014 .

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

なし

6 . 研究組織

(1)研究代表者

宮崎 美砂子 (MIYAZAKI, Misako)
千葉大学・大学院看護学研究科・教授
研究者番号：80239392

(2)研究分担者

石丸 美奈 (ISHIMARU, Mina)
千葉大学・大学院看護学研究科・准教授
研究者番号：70326114

飯野 理恵 (IINO, Rie)
千葉大学・大学院看護学研究科・助教
研究者番号：40513958

杉田 由加里 (SUGITA, Yukari)
千葉大学・大学院看護学研究科・准教授
研究者番号：50344974

時田 礼子 (TOKITA, Reiko)
千葉大学・大学院看護学研究科・助教
研究者番号：70554608
(平成 25 ~ 27 年度 研究分担者)

(3)連携研究者

佐藤 紀子 (SATO, Noriko)
千葉県立保健医療大学・保健科学部・教授
研究者番号：80283555

栗栖 千幸 (KURISU, Chiyuki)
亀田医療大学・看護学部・准教授
研究者番号：00630906

(4)研究協力者

土屋 裕子 (TSUCHIYA, Hiroko)
千葉県横芝光町・保健師

時田 礼子 (TOKITA, Reiko)
千葉大学・大学院看護学研究科・博士後期
課程大学院生
(平成 28 年度より研究協力者)

鈴木 悟子 (Suzuki, Satoko)
千葉大学・大学院看護学研究科・助教
研究者番号:10780512
(平成 28 年度より研究協力者)